

## 学内・学外協力教員

学内協力教員 (2015.04.01 - 2017.03.31)				学外協力教員 (2015.04.01 - 2017.03.31)			
浅川 晋	生命農学研究科	教授	土壌生物化学	伊藤 治	国際連合大学 サステイナビリティと平和研究所 (UNU ISP)	シニアリサーチフェロー	作物栄養学、土壌肥科学
川北 一人	生命農学研究科	研究科長/教授	植物病理学	緒方 一夫	九州大学 熱帯農学研究センター	副学長/教授	昆虫学
北野 英己	生物機能開発利用研究センター	教授	植物遺伝育種学	小川 雅廣	香川大学 農学部	教授	食品科学
竹中 千里	生命農学研究科	教授	森林環境資源学	柏木 純一	北海道大学 大学院農学研究院	講師	作物学
中野 秀雄	生命農学研究科	教授	分子生物工学	久保 康隆	岡山大学 大学院環境生命科学研究所	教授	園芸学、造園学
福島 和彦	生命農学研究科	教授	森林化学	小山 修	国際農林水産業研究センター	理事	農業経済学
本道 栄一	生命農学研究科	教授	動物形態情報学	櫻井 武司	東京大学 大学院農学生命科学研究科	教授	農業経済学・開発経済学
水口智江可	生命農学研究科	助教	害虫制御学	佐藤眞理子	筑波大学 教育開発国際協力研究センター	センター長/教授	比較・国際教育学
村瀬 潤	生命農学研究科	准教授	土壌生物化学	熊谷 晃子	国際協力機構中部国際センター	所長	国際開発
山本 浩之	生命農学研究科	教授	生物材料物理学	時田 邦浩	日本大学 生物資源科学部国際地域開発学科	教授	農業・農村開発
渡邊 彰	生命農学研究科	教授	土壌圏物質循環学	縄田 栄治	京都大学 大学院農学研究科	教授	熱帯農学
三屋 史朗	生命農学研究科	助教	作物生理学	西川 芳昭	龍谷大学 経済学部	教授	開発社会学・開発行政学
土井 一行	生命農学研究科	准教授	植物遺伝育種学	林 幸博	日本大学 生物資源科学部国際地域開発学科	教授	農業生態学
植田 健男	教育発達科学研究科	教授	教育経営学	水野 正己	日本大学 生物資源科学部国際地域開発学科	教授	農村開発学・開発と文化
小畑 郁	法政国際教育協力研究センター	センター長/教授	国際法	宮浦 理恵	東京農業大学 国際食料情報学部	助教	農業生態学
青山 温子	医学系研究科	教授	国際保健医療学	三好 皓一	立命館アジア太平洋大学 大学院アジア太平洋研究科	教授	国際協力政策・政策・事業評価 コミュニティ・キャパシティ・ ダイバロブメント
宇佐見晃一	国際開発研究科	教授	農業経済学	濱田 千裕	愛知県農業総合試験場	場長	作物全般
石崎 俊子	留学生センター	准教授	日本語教育	吉田 和浩	広島大学 教育開発国際協力研究センター	センター長/教授	国際教育協力論
夏目 達也	高等教育研究センター	教授	高等教育論、職業教育論				

## 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS) の採択

ベトナム、タイ、カンボジアにおいて、キャッサバ病害虫管理技術の開発と普及による持続的キャッサバ生産の確立を目指す「ベトナム、カンボジア、タイにおけるキャッサバの侵入病害虫対策に基づく持続的生産システムの開発と普及」が、平成27年度地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS) に、条件付きで採択されました。本事業は、九州大学を代表研究機関とし、国際農業研究協議グループ (CGIAR) の傘下である国際熱帯農業センター (CIAT) の協力のもと、東京大学、東京農業大学、名古屋大学、理化学研究所によって実施される計画です。

熱帯・亜熱帯地域で栽培されるキャッサバ (*Manihot esculenta Crantz*) は、世界で8億人の人々が食料とする重要な作物です。全世界における年間総生産量は30年間で倍増し、輸出量世界1位のタイ、第2位のベトナム、そして急速に生産量が増大しているカンボジア・ラオスといった大メコン圏における生産増が顕著です。この地域で生産されるキャッサバの主な用途は輸出用の家畜飼料や加工原料およびバイオエタノールであり、小規模農家の貴重な換金作物として生計向上に貢献すると同時に、関連産業における雇用の創出によって地域社会や国家経済の発展にも大きく寄与しています。

この地域における病害虫の被害拡大は、近年の道路インフラ整備に伴う病害虫感染苗の移動が原因であると考えられていますが、同地域の病害虫管理技術は未発達であり、専門家も不足していることから、必要とされる広域的な対策が取れない状況にあります。

本研究では、先端分子生物学的技術により侵入重要病害てんぐ巣病の病原体と未解明の媒介虫の特定および主要病害の検出・診断法の開発を行います。また、大メコン圏で蔓延中の吸汁性侵入害虫キャッサバコナカイガラムシの生物的防除を効率的に実施するとともに、各国において組織培養技術と病害虫管理技術を活用した病害虫フリー苗生産のための種苗管理体制の構築に挑みます。さらにベトナムとカンボジアでは、現地のキャッサバ協会や加工工場を介して、農家への病害虫フリー苗の販売、病害虫管理技術や既存の栽培技術の指導と普及を効率的に行う計画です。名古屋大学からは、農国センターの伊藤が普及を担当し、官による苗生産の原資の確保、農家の生産性の向上、加工工場の安定的原材料の確保といった、官-農家-民間による持続的なTriple-win型の連携関係の構築を目指します。

## オープンセミナー (2014年12月~2015年5月)

回数	日時	テーマ	講師	所属
2014年度 第6回	2014年 12月5日	インドネシア・西ジャワにおける持続的農業と農民による 農法・技術の選択—アグロエコロジーの観点から—	宮浦 理恵	東京農業大学国際食料情報学部 国際バイオビジネス学科助教
2015年度 第1回	2015年 4月28日	フィリピンの天水田稲作を対象とした根研究の現状と 将来展望	Roel R. Suralta	名古屋大学JSPS外国人特別研究員